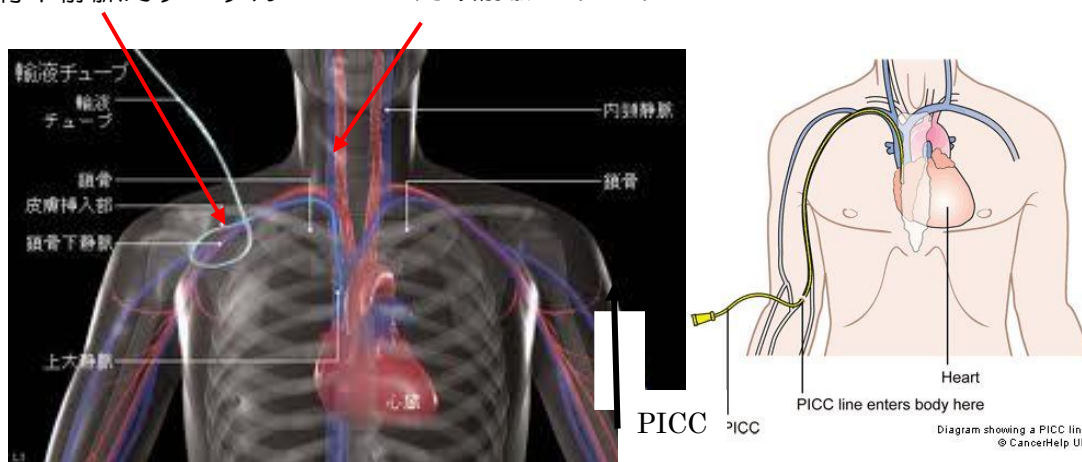


⑧ 抗がん剤治療時に挿入する中心静脈カテーテルとは？

抗がん剤の点滴は通常の腕や足からの要領で行う事は可能です。しかし漏れると非常に危険です。抗がん剤の投与時間が長く、漏れる危険性が高い場合は腕や足からの点滴では危険なので、漏れないように中心静脈カテーテルを挿入します。ここでいう「中心静脈」とは、身体を中心に位置する太い静脈のことです。挿入できる場所は、頸（内頸静脈穿刺）、肩（鎖骨下静脈穿刺）、足の付け根（大腿静脈穿刺）、そして腕（末梢挿入型中心静脈カテーテル、PICCとも呼びます）です。それぞれ挿入時および挿入後の危険性に一長一短ありますので、その時その時で挿入部位は考察しますが、腕の静脈がしっかり出ている患者様では、安全面と挿入時の心理的側面から当院ではPICCカテーテルを選択しています。

鎖骨下静脈カテーテル

内頸静脈カテーテル



鎖骨下静脈穿刺：動脈や肺を誤って刺してしまう恐れがある。いったん挿入してしまえば感染症や血栓症の危険は少ない。

大腿静脈穿刺：肺を誤って刺す恐れはないが、動脈を刺してしまう恐れがある。いったん挿入されても、血栓症やカテーテル関連感染症の危険は高い。

内頸静脈穿刺：鎖骨下静脈ほどではないが、動脈や肺を誤って穿刺する危険はある。挿入されると、大腿静脈ほどではないが、感染症や血栓症の危険はある。

PICC カテーテル：動脈や肺を穿刺する危険性はない。挿入されても感染症や血栓症の危険は低い。しかしカテーテルが細いため、急速輸液ができない。